

秦野戸川公園 整備・管理計画

2024（令和6）年1月
神奈川県平塚土木事務所

構 成

はじめに	2
第 1 章 秦野戸川公園の概要と特性	3
1－1 秦野戸川公園の概要	
1－2 公園の特性	
1－3 重点的な課題	
第 2 章 公園のめざす姿と主な目標	10
2－1 公園のめざす姿	
2－2 今後 10 年間を見据えた重点的な目標	
第 3 章 取組方針	13
3－1 管理運営方針	
3－2 安全・安心な公園への方針	
3－3 ゾーン別の方針	
3－4 整備の方針	

はじめに

「神奈川県立都市公園の整備・管理の基本方針」（以下「基本方針」という。）に基づき、今後 10 年間に重点的に秦野戸川公園において取り組む整備と管理の目標と取組方針などを定めたものが、「秦野戸川公園 整備・管理計画」です。この計画では、秦野戸川公園の特性を整理するとともに、公園の特性や社会状況を踏まえて今後 10 年間で特に配慮すべき課題を整理した上で、公園の目指す姿とその実現に向けた重点的な目標と、整備・管理・運営方針などを定めています。

県立都市公園では、公園管理者、指定管理者、関係団体、公園利用者など、多様な主体により整備や管理、運営が行われていますが、この計画により、それぞれの主体が効果的・効率的な取組の展開につなげていけるよう、公園に関わる様々な人たちが、公園の特性や目指す姿、取組方針などを共有するために活用していきます。

また、計画に掲げられた目標の達成状況や各取組の進捗状況や社会状況を踏まえ、おおむね 5 年を目安に、必要に応じて見直しを行っていきます。

【参考】神奈川県立都市公園の整備・管理の基本方針

整備と管理の方向性について、5つの視点から 10 の施策の方向性と 24 の施策の展開による体系を示しています。

視点	施策の方向性	施策展開の具体例
Ⅰ 自然環境の保全と活用	(1)生態系や生物多様性の保全	①自然環境情報の共有と整備・管理方法への反映
		②外来生物対策や自然植生復元などの動植物の生息環境づくり
	(2)地球環境問題等への地域からの対応	③環境学習フィールドとしての機能向上
		④環境負荷軽減の推進と都市生活環境問題へのアプローチ
Ⅱ 災害対応の推進	(3)緊迫する自然災害への対応	⑤より具体の発災時想定に基づく連携対応強化による防災力の向上
		⑥様々な災害に対応する防災施設の整備
Ⅲ ユニバーサルデザインの推進	(4)誰もが安全・安心にすごせる公園づくり	⑦安全で安心な公園のための施設の整備と管理
		⑧ユニバーサルデザインの推進
		⑨誰もが楽しめる利用・健康増進プログラムや憩いの空間の提供
Ⅳ 地域活性化への貢献	(5)歴史や文化の継承と創造	⑩歴史資源や伝統行事の継承
		⑪地域文化を育む舞台となる公園づくり
	(6)地域と一体となった魅力の向上	⑫周辺施設や観光資源とのネットワーク
		⑬地域活性化の推進
Ⅴ 効率的で効果的な公園整備とサービス	(7)質の高いサービスの提供	⑭風景美術館を目指した景観づくり
		⑮指定管理者制度の効果的運用
		⑯ニーズ把握を踏まえた施設・サービスの充実
	(8)多様な主体との連携	⑰広報、情報発信等の工夫
		⑱連携の多様化
		⑲民間活力の利用（Park-PFI等の活用）
	(9)既存公園の再生	⑳連携のための仕組みの推進
		㉑公園施設長寿命化計画の策定と更新
	(10)都市の魅力を高める都市公園整備の着実な推進	㉒公園再生の着実な推進
		㉓都市公園の着実な整備の推進
		㉔国と連携したみどりの拠点整備

第 1 章 秦野戸川公園の概要と特性

1－1 秦野戸川公園の概要

(1) 所在地： 秦野市堀山下・戸川・横野

(2) 都市計画の概要

ア 都市計画決定

	日付	番号	面積
当初	1992（平成 4）年 1 月 17 日	県告示第 32 号	50.7ha

イ 公園種別

広域公園

(3) 都市公園の開設の概要

	日付	面積
当初	1997（平成 9）年 7 月 13 日（一部開園）	12.0ha
最終	2011（平成 23）年 4 月 1 日	36.1ha

(4) 位置図



(5) 航空写真



(6) 公園の主な施設

パークセンター、風の吊り橋、多目的広場、少年野球場、バーベキュー場、駐車場、庭園（茶室含む）、山岳スポーツセンター※、秦野ビジターセンター※ はだの丹沢クライミングパーク※など

※は都市公園法第5条の許可による設置管理許可施設

(7) 利用状況

年間利用者数

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
利用者数(人)	569,710	602,890	447,760	416,340	565,240

月別利用者数

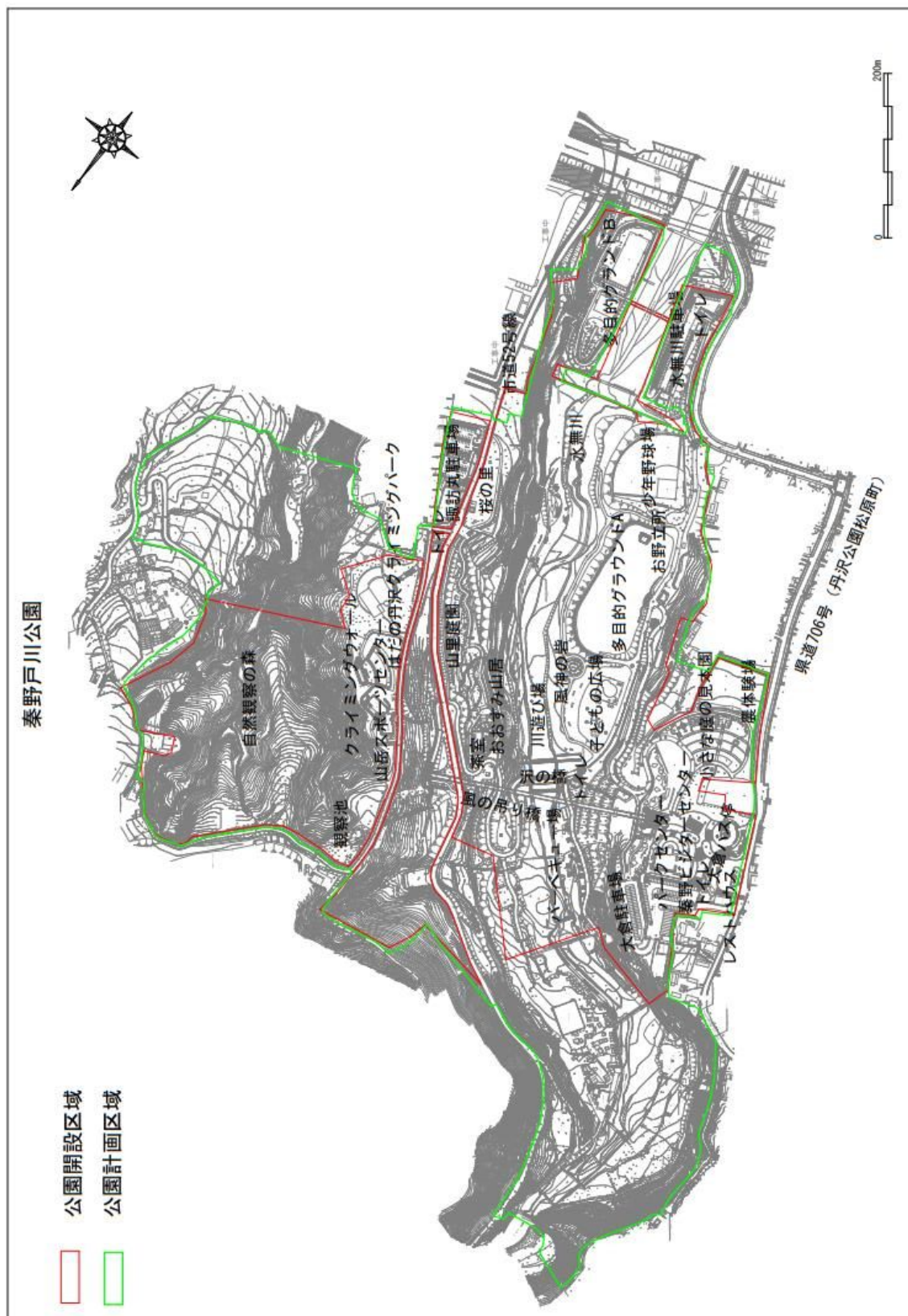
令和元年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月
合計(人)	150,520	51,080	41,090	37,040	84,240	33,830
602,890	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	63,260	38,780	21,570	14,150	27,200	40,130

※令和2年度以降は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、イベントが中止になったことから、令和元年度の利用者数を掲載している。

(8) 主なイベント開催状況

地元の団体と連携した「秦野戸川公園まつり」や、山岳景観を活かした「チューリップフェア」などの大型イベントのほか、自然公園のビジターセンターと連携した環境学習プログラムなど、自然とのふれあいの場を提供するイベントを多く開催しています。

【秦野戸川公園概要図】



1－2 公園の特性

（１） 公園の成り立ち

「神奈川県緑のマスタープラン（1992）」の、新規都市公園の配置計画に基づき公園が位置付けられました。平成10年に開催された「かながわ・ゆめ国体」の会場となったことも公園整備への契機となりました。

（２） 公園の特性

本公園は、秦野市西部の新東名高速道路秦野丹沢スマート IC の北側に接し、丹沢山塊から秦野盆地へと広がる扇状地上にあり、周辺には畑や果樹園などの農地が散在し、園内には水無川（砂防区域）が流れています。

また、四季を通じて登山者で賑わい、丹沢の自然及び登山に関する知識・技術の普及啓発に資するとともに、公園を南北に流れる水無川など自然環境を活かした多様なレクリエーション機能を有する公園です。

四季折々の花を楽しみ、田園風景に浸り野遊びや農作業体験などが楽しめる「花の山里・ファームホリデー」を整備計画のテーマとして、整備が進められました。



(3) 公園特性の全体把握表

「神奈川県立都市公園の整備・管理の基本方針」に示す特性項目により、秦野戸川公園の特性を整理します。

特性	特性項目	公園の状況
自然	①緑地	水無川の段丘斜面の一部や公園の東部には落葉広葉樹を中心とした自然林が広がっている。その他の施設が配置されている地区は植栽整備による。
	②生態系	公園の背後に丹沢を擁していることから、動物相は多様であり、大型の哺乳類、多くの鳥類が確認されている。
	③地形状況	公園中央の水無川を挟んで、左右岸の河岸段丘地や傾斜地を活用している。
防災	④防災	神奈川県地域防災計画では、広域応援活動拠点、秦野市地域防災計画では避難地、自衛隊活動拠点に指定
歴史文化保有状況	⑤歴史	大倉地区は、昭和の登山ブームで登山者が激増した表丹沢の主要な登山基地となっている。
	⑥文化	茶室
交通状況	⑦交通アクセス	最寄り駅「渋沢駅」 駅からバスあり。 最寄り IC「秦野丹沢スマート IC」から約 3km、「秦野中井 IC」から約 10km。
	⑧駐車場容量	3カ所 中型 10 台、普通車 314 台
周辺状況	⑨2km 圏内（徒歩）	山地の一部はゴルフ場に利用されているが他の大部分は樹林地となっている。また、河川沿いの低地や幅の狭い河岸段丘台地は小規模な住宅地や畑地として利用されている。令和 4 年 4 月に新東名高速道路秦野丹沢 SIC が供用。圏域人口は約 1 万人。
	⑩10km 圏内（乗り物）	多くは丹沢山地であるが、水無川沿いの平坦部は秦野市街地としてまとまった利用が行われている。圏域人口約 23 万人。
レクリエーション施設	⑪レクリエーション	多目的グラウンド、少年野球場、バーベキュー広場、川遊び、山岳スポーツセンター（県スポーツ局施設）、スポーツウォール、ボルダリング（秦野市施設）など
利用者	⑫利用者数	年間約 60 万人
	⑬利用者ニーズ	「散策・散歩」や「ピクニック」利用が多い。
	⑭イベント	チューリップフェアの他、地域と連携した交流イベント、丹沢の登山基地であることから、丹沢山開きなど丹沢に関わるイベント、農体験が行われている。
開園時期	⑮開園時期	平成 9 年に一部開園。その後、順次開園区域が広がる。
住民参加	⑯住民参加	農体験や森林づくりを行うボランティア団体がいる。県民参加による「公園利用運営会議」などがある。

(4) 公園の魅力

公園の概要と特性を踏まえ、本公園特有の魅力を抽出すると、以下のとおりです。

① 多様なレクリエーション資源

本公園は、市町村の区域を超える広域のレクリエーション需要に対応する、面積 50 ヘクタール以上の大規模な公園として都市計画決定され、丹沢の雄大で豊かな自然環境を背景に丹沢山麓と河川が連続した景観を有しており、散策、自然鑑賞、川遊び、バーベキューなど自然環境を生かしたレクリエーションが行われているのをはじめ、野球場や多目的グラウンドでは野球、サッカー、ターゲットゴルフなどのスポーツが行われているほか、山岳スポーツセンター及びはだの丹沢クライミングパークではスポーツクライミングが行われるなど、多様なレクリエーション資源を有しています。

更には、表丹沢の登山基地として、丹沢の自然や登山に関する知識・技術の普及啓発の場として、自然公園のビジターセンターや宿泊研修機能を有する山岳スポーツセンターも設置されています。

② 表丹沢の観光拠点

上記①の多様なレクリエーション資源が観光資源としての魅力を高めています。

秦野市は「森林観光都市はだの」を掲げ、令和 2 年 9 月に策定した「表丹沢魅力づくり構想」の推進のため、表丹沢を「都心から近い山岳・里山アクティビティの聖地」としてブランド化する取組の一つとして、「OMOTAN」というロゴマークを作成するなど、観光振興やブランディングに取り組んでいます。

更には、丹沢大山、弘法山、鶴巻温泉、桜の名所など、他の観光地との周遊による観光機能を強化することで、更なる利活用が期待できます。

③ 災害時の活動拠点

県の地域防災計画では、活動が広域かつ長期にわたる場合に必要な後方支援等の中心となる広域応援活動拠点として指定されているのをはじめ、市の地域防災計画では、ヘリコプター臨時離着陸場所と自衛隊活動拠点に指定されているほか、パークセンターや山岳スポーツセンターは第二次開設避難場所に指定されるなど、防災活動拠点としての機能を有しています。

④ 新東名高速道路 秦野丹沢スマート IC 開通に伴う利便性向上

本公園へのアクセスは小田急小田原線の渋沢駅からバスで約 15 分、東名高速道路秦野中井 IC から大倉駐車場まで車で約 30 分でしたが、令和 4 年 4 月には新東名高速道路秦野丹沢スマート IC が開通し、大倉駐車場までは車で約 10 分、スマート IC から最も近い諏訪丸駐車場までは車で数分となり、アクセスが飛躍的に向上したことで、上記①～③の更なる機能向上が期待できます。

1-3 重点的な課題

基本方針に示した、県立都市公園が抱える8つの課題の中で、秦野戸川公園において、今後10年間で特に配慮が必要な課題は次のとおり設定します。

課題1 効率的で効果的な公園整備と維持管理

一部開園後20年以上が経過し、設備関係の施設を中心に老朽化が進み、更新時期となっています。

また、用地取得済みの未整備区域が残っており、秦野丹沢スマート IC 開通に伴う観光需要の増大等に対応した整備を行っていく必要があります。

課題4 持続可能な社会の実現への更なる取り組み

本公園の自然は、丹沢山地との連続性に特徴があります。生物多様性の保全の観点から、適正な樹林地管理を行うことや、秦野ビジターセンターと連携した学習機能の向上など、さらに取り組みを進める必要があります。

課題5 大規模な自然災害への具体的で実効性のある対応

本公園は、神奈川県地域防災計画により広域応援活動拠点に指定されています。今後、公園に隣接して新東名高速道路の秦野丹沢スマート IC（以降「秦野スマート IC」とします）が設置され、広域的なアクセスが飛躍的に向上することから、応援活動拠点としての対応強化等が必要となっています。

また、公園内に土砂災害警戒区域が点在しており、樹林地では樹木の大木化及び密林化による倒木や斜面崩壊の恐れが生じていることから、適切な法面对策が必要です。

課題6 高齢者、障がい者など誰もが楽しめる公園づくり

年間約60万人の方が訪れる広域公園として、また、コロナ禍により、都市公園が老若男女問わずより身近な存在として利用されるようになったことから、ハード、ソフトの両面から取り組んでいく必要があります。

また、砂防指定地の水無川を内包することから、堆積土砂の除去による利用環境の維持なども必要となっています。

課題7 周辺資源との機能連携や情報発信の工夫を通じての地域活性化への貢献

秦野丹沢スマート IC の設置による観光需要の増大など、観光客誘致への期待は高まっています。さらに、新たなクライミング施設が整備されたことから、県内のクライミング及び登山の拠点として、地域活性化への貢献が望まれています。

また、広域利用を促す案内や情報発信の充実も必要となっています。

【参考】今後の県立都市公園の整備・管理に係る課題（「基本方針」より）

課題1	効率的で効果的な公園整備と維持管理
課題2	県立都市公園の整備・管理の新たな指標の確立
課題3	サービス水準の確保と更なる向上
課題4	持続可能な社会の実現への更なる取り組み
課題5	大規模な自然災害への具体的で実効性のある対応
課題6	高齢者、障がい者など誰もが楽しめる公園づくり
課題7	周辺資源との機能連携や情報発信の工夫を通じての地域活性化への貢献
課題8	県民、NPO、民間事業者など多様な主体との協働・連携の推進

第2章 公園のめざす姿と重点的な目標

2-1 公園のめざす姿

秦野戸川公園は、樹林地だけではなく、水無川でも丹沢とつながり、地域の自然環境や生物の生息環境保全に重要な役割を担っています。また、丹沢を背景とした公園が有する景観は、地域のランドマークともなっています。

丹沢有数の登山基地という立地から、様々なアウトドアスポーツが楽しめ、競技スポーツや健康増進として役立っています。その他、水無川でのレジャーや茶室を利用した文化活動ができるなど、雄大な自然の中で、充実した余暇活動の場となっています。

一方、施設の老朽化や害獣被害などの課題も生じています。これらの課題に対応し、誰もが安全、安心に利用できる公園管理に取り組むとともに、市街地の中の貴重なオープンスペースとして、防災面での役割も果たして行きます。

そして、秦野戸川公園は、散策や鑑賞・遊び・体験など多様なレクリエーション機能を提供するとともに、景観や自然環境を保全することはもとより、秦野丹沢スマート IC 設置でのアクセス性向上による防災機能の更なる向上と、多彩なアウトドアアクティビティも楽しめる広域レクリエーションの場とすることをめざします。

【秦野戸川公園のめざす姿】

- 丹沢山麓と河川とが連続した景観と、動植物の生息・生育環境の保全を図る
- 雄大な自然の中での多様なレクリエーション機能を提供するとともに、丹沢の自然及び登山に関する知識・技術の普及啓発や、多彩なアウトドアアクティビティの提供と地域活性化への貢献を図る
- 災害時の救援活動の拠点として、安全・安心の確保を図る

2-2 今後10年間を見据えた重点的な目標

秦野戸川公園のめざす姿を実現するため、基本方針の施策体系（視点、施策の方向性、施策展開の具体例）から、次のとおり今後10年間を見据えた重点的な目標を設定します。

目標の達成にあたっては、公園の管理者である県、指定管理者だけではなく、地元市や県民の方々、民間企業など、多様な主体との協働により進めることとします。

【目標】 自然環境の保全とともに理解を深める機会の提供

樹木の再生による公園緑地の保全に努めてまいります。また、山岳スポーツセンター、秦野ビジターセンターなどのアウトドアスポーツ・レクリエーション設置許可施設と連携し、丹沢の自然及び登山に関する自然体験や環境学習等の自然環境への理解を深める機会の提供に取り組みます。

【施策体系】・視点

・施策の方向性

・施策展開の具体例

I 自然環境の保全と活用

（1）生態系や生物多様性の保全

（2）地球環境問題等への地域からの対応

②外来生物対策や自然植生復元などの動植物の生息環境づくり

③環境学習フィールドとしての機能向上

【目標】 災害対応機能の向上

新東名高速道路の秦野丹沢スマートICが設置されることから、秦野市の関係部局などと連携し、災害時における広域応援活動拠点としての公園利活用についてのマニュアル作成等の検討に取り組みます。

また、パークセンター等が第二次開設避難所として位置付けられていることから、市の関係部局と連携し、役割分担等の検討に取り組みます。

さらには、樹木が成長し密生化し弱った樹木による枯れ枝、倒木が来園者に当たらないよう、日常的な点検や伐木・伐採、法面对策等に取り組みます。

【施策体系】・視点

・施策の方向性

・施策展開の具体例

II 災害対応の推進

（3）緊迫する自然災害への対応

⑤より具体的な発災時想定に基づく連携対応強化による防災力の向上

⑥様々な災害に対応する防災施設の整

【目標】 誰もが安全に楽しめ、利用できる公園

多様な利用者に対応できるよう多言語表示も含めた利用案内にも取り組むことで、誰もが安全に楽しめ、利用できる公園とします。

【施策体系】・視点

・施策の方向性

・施策展開の具体例

III ユニバーサルデザイン推進

（4）誰もが安全・安心に過ごせる公園づくり

⑦安全で安心な公園のための施設の整備と管理

⑧ユニバーサルデザインの推

【目 標】 公園の機能強化と周辺施設との連携による地域活性化

秦野丹沢スマートICの令和4年度開通に併せ、山岳スポーツセンター、秦野ビジターセンターをはじめとした設置許可施設と連携した、展示や広報、情報発信、イベント開催のほか、公園周辺の観光資源及び秦野市等と連携した登山者の公園利用や「地産地消」の促進、様々なスポーツアクティビティの展開等により、地域活性化への貢献に取り組めます。

また、未整備区域については、公園全体の整備計画上の役割を整理した上で、昨今の社会情勢の変化や公民連携の観点も踏まえて検討を進め、公園や地域の活性化につなげていきます。

【施策体系】・視点	IV地域活性化への貢献
・施策の方向性	(6) 地域と一体となった魅力の向上
・施策展開の具体例	⑫周辺施設や観光資源とのネットワーク ⑬地域活性化の推進 ⑯ニーズ把握を踏まえた施設・サービスの充実

【目 標】 老朽化した施設の計画的な更新

事後的な修繕補修から予防保全的な維持管理への転換を推進し、施設の維持管理に要する負担を平準化するとともに、ライフサイクルコストの低減を図るため、「公園施設長寿命化計画」に基づき、老朽化した施設の計画的な更新を行います。

なお、長寿命化計画は必要に応じて適宜見直し、予防保全的な補修だけでなく、機能向上や維持管理経費の削減に着目した施設の再生や、法令・規則等の改正に対応した施設改修や、機器類の機能向上や増加に伴う電気設備等インフラ施設の改修にも取り組みます。

【施策体系】・視点	V効率的で効果的な公園整備とサービス
・施策の方向性	(9) 既存公園の再生
・施策展開の具体例	⑳公園長寿命化計画の策定と更新

第3章 取組方針

今後10年間を見据えた目標を実現するため、利用者へのサービスの向上を念頭に、管理や整備に関わる取組方針について、安全・安心への取組にも考慮し、次のとおり定めます。

3—1 管理運営方針

(ア) 基本方針

「山岳スポーツセンター」「秦野ビジターセンター」などの設置許可施設との連携を図りながら、散策や鑑賞・遊び・体験など多様なレクリエーション機能を提供するとともに、景観や自然環境を保全し、普及啓発する情報の発信源としての機能を発揮できるよう管理運営を行います。また、災害発生時には防災活動の支援拠点となるよう、日頃より関係団体と連携を図ります。

(イ) 自然環境保全方針

多様な生物の生息環境となるよう、まとまりある多様な植生や水辺を保全します。

(ウ) 運営方針

運営において留意すべき事項は次のとおりです。

- 広報や情報発信等の工夫を行い、利用者と双方向のコミュニケーションを図りながら、利用促進に必要な取組を管理運営に反映します。
- 公園をフィールドとして活動する多様な人材のネットワークの形成に努めるとともに、様々な団体との連携によって公園利用の促進に努めます。なお、公園利用の活性化及び自然環境の保全・再生を目的とした、「公園利用運営会議」等がありますので、当会議等の企画・運営を行い、県民参加型の公園づくり及び運営を推進します。
- 自然とふれあえる機会を提供し、体験を通じて自然環境への理解を深めるよう運営を行います。
- パークセンターは、利用者へのサービス提供や情報発信拠点、環境教育運営拠点、交流拠点として運営します。
- 多様な公園利用プログラムの提供とマナー向上を図り、障がい者、幼児から高齢者まで誰もが安全、安心して楽しめる管理運営を行います。
- ゴミの持ち帰り・省エネルギー・クリーンエネルギー利用を推進し、循環型社会への普及啓発に努めるとともに、園内の植物管理に伴って発生する木や枝等を園内リサイクルする等のゼロエミッションに努めます。
- 公園周辺施設との連携、地元の人々との連携、情報の連携などを深め、公園周辺地域での世代を超えた交流などコミュニティの活性化と地域全体の魅力向上を目指します。
- 新型コロナに対応した「新しい生活様式」など、時代の変化に適合した管理運営を行います。

(エ) 維持管理方針

維持管理において留意する事項は次のとおりです。

- 公園施設や設備については、その機能や特性を十分に理解した上で、清潔かつ正常な状態とし、利用者が安全で快適に利用できるよう適正な維持管理を行います。
- 利用者ニーズや社会情勢の変化を踏まえ、費用対効果を考慮しながら公園再生に取り組む維持管理を行います。
- 植物管理（植込地、芝生、樹木、草地等管理）について、当初の植栽意図を踏まえ、各植物の特性及び生態系に配慮した上で、適正に持続、育成するよう必要な維持管理を行います。
- 山里の牧歌的な風景と四季折々の花を演出するような維持管理に努めます。
- 利用者や様々な団体との情報交換を図りながら、維持管理業務を行います。
- 近年の害獣被害に対応するため、ネットの設置や下草刈りなどの樹林地管理に努めます。

3-2 安全・安心な公園への方針

地震・台風・大雨などへの対応、公園施設の老朽化に起因する事故の発生に未然防止、そして、近年の社会状況を踏まえ、公園の利用者や周辺住民が安心して公園を利用できるよう、次のとおり対応します。

(1) 地震災害

秦野戸川公園は、神奈川県地域防災計画上では広域応援活動拠点に、秦野市地域防災計画では、ヘリコプター臨時離着陸場所及びに指定されています。これらを踏まえ、大規模地震などの大規模災害発生時等には、県・地元自治体・指定管理者が連携・協力して災害対応に努めます。

(2) 気象災害（台風・大雨等）

台風や豪雨等の自然災害への脅威の高まりなどを踏まえ、巡回点検や応急対策等のマニュアルを作成し実践します。また、県、指定管理者及び防災機関との連絡体制の構築を行い、併せて、被害軽減のための対応を行います。

(3) 公園の安全管理

園路や休憩施設、遊具などの公園施設は、専門業者による点検や公園管理者による日常点検やパトロールを定期的に行い、不具合の早期発見、早期対応を行います。また、施設沿いは、除草や剪定をこまめに行い、周囲からの死角を解消し事件・事故の発生を未然に防止します。その他、想定される様々な危機への的確な対応に努めます。

さらに、新型コロナウイルス等の感染症への対応など、想定される様々な危機への的確な対応に努めます。

3-3 ゾーン別の方針

管理運営や改修整備等を重点的・効率的に実施していくため、園内の各ゾーンの現況等も踏まえ機能・目的・自然環境等により類型化し、ゾーンごとの方針を定めます。

(1) ファミリー・レクリエーションゾーン

来園者が集中する本公園の顔となるゾーンであることから、花壇等により本公園の象徴となる空間演出など、清潔で修景に配慮した維持管理を行うとともに、各ゾーンへの主たる導入部であることから、公園施設の案内やイベント情報、マナーや注意事項などの情報提供を継続的に実施します。

また、バーベキュー場、子どもの広場、農体験場、見本園などは、各施設の利用特性に応じて、利用者の安全性、快適性を確保します。

(2) スポーツ・レクリエーションゾーン

野球場や多目的グラウンドなどがあり、スポーツ利用が多いゾーンです。野球やサッカー、ターゲットバードゴルフなど多彩な種目が行われており、それぞれの競技特性に応じて、快適な利用が図れるよう維持管理を行います。

(3) 川遊びゾーン

水無川での川遊び利用が多いゾーンです。安全性を第一に配慮しつつ、自由に水遊びができる空間として適切な管理を行います。

また、水無川を渡る園路があることから、降雨時の増水に注意し、適宜通行止めにするなどの安全処置を行います。

また、増水後に土砂が堆積することがあることから、水無川管理者と連携を図り、土砂の早期除却に努めます。

(4) 文化と芸術のゾーン

茶室及び山里庭園では、茶会による利用もあることから、日本庭園としての美観を確保し、快適で質の高い管理を行います。

また、「秦野ビジターセンター」や「はだの丹沢クライミングパーク」（どちらも公園管理外）との間では、日頃から相互に連携し、利用者サービスの向上に努めます。

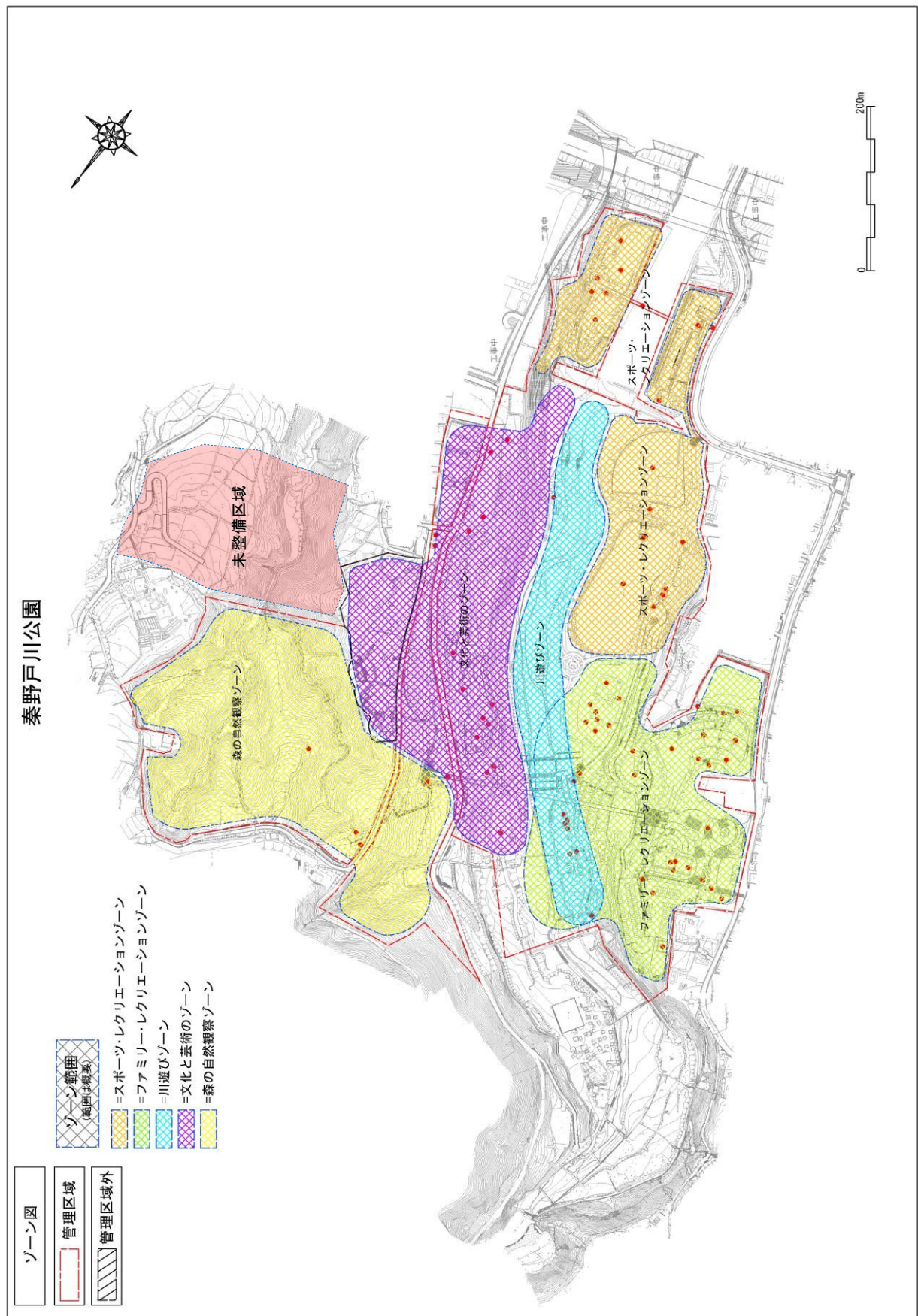
(5) 森の自然観察ゾーン

猛禽類や大型哺乳類など多くの野生動物が生息する豊かな自然環境を有するゾーンです。この自然環境の保全・活用について、どのようにするか関係機関・団体等との情報交換・意見交換を行いながら管理運営を行います。

(6) 未整備区域

未整備区域の活用の仕方にあたっては、公園全体の整備計画上の役割を整理した上で、昨今の社会情勢の変化や公民連携の観点も踏まえ、検討を進めます。

【秦野戸川公園ゾーン図】



3—4 整備の方針

公園の再整備・拡大整備・長寿命化などについては、本公園の特性・魅力に照らし、長期的な視点に立つことを基本としますが、本公園のむこう 10 年間を見据えた目標を踏まえ、10 年間の整備方針を設定し、整備を行うものとします。

整備にあたっては、財政面での制約が厳しくなる中、民間事業者の資金・人的資源・ノウハウといった活力を、県立都市公園の整備に活かす必要があることから、様々な公民連携の活用を検討します。

(1) 整備方針

多様なレクリエーション機能の提供、豊かな風景や自然環境を保全、丹沢の自然及び登山に関する知識・技術の普及啓発に資すること及び災害時の防災拠点としての機能を有する公園を目指し、次を整備方針とします。

- 長寿命化計画に基づく施設の更新により、公園施設を安全に利用できるよう、計画的に整備します。
- 誰もが利用しやすい公園とするため、ユニバーサルデザインの推進、計画的整備をします。
- 防災機能の向上のため、災害の未然防止を計画的に進めます。

(2) おおむね 10 年以内に重点的に着手すべき主な施設等

次の施設等については、速やかに着手することが望ましいため、Park-PFI など公民連携の手法を含め、重点的な取組を行います。

名称	所在ゾーン	事業目的
パークセンター改修	ファミリー・レクリエーションゾーン	老朽化施設の更新等
園路	全域	老朽化施設の更新等
遊具	ファミリー・レクリエーションゾーン	老朽化施設の更新等
トイレ改修	全域	ユニバーサルデザインの対応
多言語案内板	全域	ユニバーサルデザインの対応
法面保護施設	文化と芸術のゾーン	防災機能の向上
樹林地整備	文化と芸術のゾーン	防災機能の向上
害獣防護柵	全域	防災機能の向上
防災非常用電気設備	全域	防災機能の向上
未整備区間の活用	未整備区域	公園機能の強化・地域活性化

※ 整備の優先順位は、施設の老朽化の程度、利用者からの要望、利用者への安全確保等の観点から、総合的に判断する。